



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 142 July. 1. 2015

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCLビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



マウントテンブル北壁「グリーンウッド/ロックル」の登攀 山田利行さん(本文10P)

目次

○平成27年度支部通常総会 H26年度事業報告・決算報告 H27年度事業計画・予算 H27年度組織図・役員	佐野忠則	1	○同好会コーナー 山中光子 14 村中征也
○荒島岳遭難事故経過報告	柴田清康	7	○支部友コーナー 酒井 広 15
○東海支部の蔵書からの一冊④	石田文男	9	○委員会報告 亀の会 加藤守彦 16 自然保護委員会 南川陸夫 17
○Alpine express in Canadian Rockies	青年部 山田利行	10	○会務報告 毛利邦男 18
○ボランティア活動と登山	前田隆久	12	○会員異動 (ルーム日誌) 酒井 広 23
○“観桜会”開催	和田豊司	13	○INFORMATION 星 一男 24 ○編集後記

平成27年度支部通常総会

総務委員長 佐野忠則

平成27年度支部通常総会

5月16日(土)平成27年度東海支部通常総会が東海支部に隣接する高砂殿で開催された。

定刻の午後5時から毛利総務委員の司会で総会が始まった。最初に小川支部長から以下の挨拶があった。東海支部は、会員増強と若返りに努めてきた結果現在322名で32支部中最大の支部となっている。また今年1月以降東海ユースおよび青年部から10名の40歳以下の入会があり平均年齢の引き下げに貢献している。

しかしながら、今年1月以降支部員の遭難事故が2件発生し、1名死亡、1名行方不明となっている。具体的には、1月18日池田隼人支部員を含む3名の早稲田大学山岳部OBのパーティが北アルプス五竜遠見尾根付近でのバックカントリースキーで遭難する事故が発生した。支部からは直ちに山田、高橋両副支部長、野呂遭難対策委員長を中心として3回にわたる捜索活動を行ったが未だ発見されていない。今後も継続捜索の予定である。

もう一件は4月12日荒島岳において支部員5名のパーティの個人山行で、大島忍支部員が転落死亡し、2名が骨折する事故が発生した。山田、柴田両副支部長が直ちに現地に急行するとともに、事故調査委員会を発足させ、事故の経緯と背景を調査中である。調査結果については、支部報等で報告する予定である。以上の報告の後、亡くなった方へ出席者全員で哀悼の意を表し、黙祷を捧げた。

続いて、審議に入り、支部規約第15条2項により小川支部長に議長委嘱の後、定足数の確認では司会の毛利総務委員からの「支部規約17条1項により会員数の1/2以上により議決することができるとなっております。現在の会員数322名であり、よって定足数は161名となります。出席者75名 委任状130名合計205名となりますので総会は成立します」の報告により、議事に入った。

第一号議案として柴田副支部長から平成26年度の事業報告と、市川会計より決算報告が行なわれ、野呂監事から全て適正であるとの会計監査報告の後、質疑に入った。遭難対策初動基金の扱いについて26年度に捜索が行われているが、支出が無かったのかとの質問などが出さ



議長を務める小川支部長

れたが、それらは27年度に支出されているとの説明の後、拍手をもって承認可決された。

引き続き第二号議案として平成27年度事業計画を柴田副支部長が、予算案を市川会計が行ない、組織図では国民の祝日「山の日」が制定されたことに伴い、本事業は支部全体の行事であり、各委員会に協力を求める必要があるため、委員会の上位組織として「山の日」事業本部を設置する件、従来総務委員会の下にあったインターネット小委員会と資料映像小委員会を統合しデジタルメディア委員会を設置する件、110周年事業の一環として記念誌「インドヒマラヤ」を発行する案が示された。

役員については、以下の変更案が柴田副支部長から提示された。佐野忠則氏を新たに副支部長に指名する件、及び「山の日」事業本部長に小川支部長、各委員会の委員長については総務委員会に毛利邦男氏、山行委員会に鈴木慎吾氏、青年部に藤寄正智氏、登山教室委員会に天野倅明氏、デジタルメディア委員会に井上寛之氏、インドヒマラヤ編集委員会に沖允人氏。以上の組織図及び役員変更案が拍手をもって承認可決された。

その後、佐野新副支部長からネパール大地震に伴う日本山岳会本部における義援金募集について報告された。以上で議事を終了した。

懇親会

18時40分からは、場所を別室に移し、高橋副支部長の挨拶と恒例となった石原國利氏から差し入れの黒田武士による乾杯で懇親会は始まり、大いに盛り上がる中で山田副支部長の中締めで閉会となった。

平成26年度事業報告

期 日	内 容	担 当
I 登山振興事業(公益目的事業1)		
(1) 登山に関する文化・学術の振興事業		
7月	第12次インドヒマラヤ登山隊派遣	インドヒマラヤ登山隊
下期	110周年記念出版事業の一環としてインドヒマラヤ登山の記録及び地域研究をまとめた「インド・ヒマラヤ」の編集	インドヒマラヤ編集委員会
毎月第3土曜日	猿投の森 自然観察会	猿投の森づくりの会
7月～12月	なごや環境大学共育講座への出向講座	猿投の森づくりの会
(2) 児童・青少年の育成事業		
4月5～6日	知的発達障害者支援登山、SON愛知と協働 朝明溪谷	ボランティア委員会
9月27・28日	御在所フェスティバル(ゴザフェス)	青年部
10月11日・18日	親と子のふれあい登山教室 一尾高山	ボランティア委員会
11月8日	幼稚園児森林体験「森の探検隊」	猿投の森づくりの会
(3) スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業		
4月～9月	登山教室前期開講 (中日文化センター、朝日カルチャーセンター、NHK文化センター、中日文化センター山ガール登山教室)	登山教室委員会
6月7日～8日	夏山フェスタへの協力	夏山フェスタ実行委員会
10月～3月	各センター秋期登山教室 開講	登山教室委員会
(4) 事故防止事業		
4月～3月	読図山行 計11回実施	図書委員会
随時	チェンソー慣熟訓練・安全教育	猿投の森づくりの会
通年	山行計画の携帯電話による受付	遭難対策委員会 他
8月	山岳救助訓練講習会	遭難対策委員会
(5) 国際交流事業		
8月6日～12日	日中韓学生交流登山隊の派遣(韓国)	青年部
(7) その他目的を達成するための事業		
5月11日	春のブラインド登山(燕山)	ボランティア委員会
10月25日	森の音楽祭	森の音楽祭実行委員会
11月8日	全国ボランティア(障害者支援) 登山情報交換会	ボランティア委員会
11月9日	秋のブラインド登山 猿投山(雨天中止)	ボランティア委員会
II 山岳研究調査事業(公益目的事業2)		
通年	支部蔵書管理	図書委員会
III 山岳環境保全事業(公益目的事業3)		
通年	猿投の森、山桜フィールド及び東大演習林における森づくり	猿投の森づくりの会
毎月4回	定例作業	猿投の森づくりの会
7月12日～13日	自然観察山行(赤沢自然休養林・御岳崩落跡地の復旧状況)	自然保護委員会
11月8日～9日	森の勉強会(関西・京都・東海共催)、東大演習林・猿投の森	自然保護委員会
11月22日～24日	JAC自然保護全国集会、広島にて	自然保護委員会
11月3日～9日	森の勉強会(関西・京都・東海共催)、東大演習林・猿投の森	自然保護委員会
11月22日	猿投の森 法人会員デー	猿投の森づくりの会
通年	両棲類および哺乳動物の生態調査	自然保護委員会
2. 共益事業		
通年	支部山行(計画41回、実施28回)	山行委員会
通年	支部友山行(計画35回、実施25回)	支部友委員会
随時	支部友ミーティング(計画6回、実施6回)	支部友委員会
通年	定例山行(計画12回、実施6回)と自主山行(5回計画、5回実施)	亀の会
通年	定例山行(18回実施) 自主山行(26回実施)	東海ユース
通年	毎月の定例山行の実施、合宿訓練	青年部
随時	指導研修会の実施、岳連主催研修会などへの派遣	青年部
通年	各種同好会が企画する各種山行が実施された。	同好会
1月11日(土)	支部新年懇親会(高砂殿)	総務委員会
その他		
支部報	年4回発行 No. 137(4月) No. 138(7月) No. 139(10月) No. 140(1月) 支部ガイド	7月
常務委員会	毎月第4水曜日 支部長・副支部長会議	毎月第3週(曜日不定期)

平成26年度 決算報告

(1) 一般会計

(金額単位：円)

収入の部			支出の部		
科目	予算	決算	科目	予算	決算
25年度からの繰越金	1,113,663	1,113,663	支部報発行費	500,000	617,322
支部会費	1,200,000	1,241,000	支部ガイド発行費	250,000	316,440
支部報・ガイド広告料	235,000	235,000	文書印刷費	50,000	0
本部からの支部助成金	820,000	792,500	コピー機リース費	200,000	272,181
同上(支部活性化)	164,000	168,000	事務用品・消耗品費	50,000	24,869
同上(110周年記念事業)	—	200,000	110周年インドヒマラヤ隊	—	200,000
登山教室講習収益	900,000	1,182,740	通信費(Tel・IN)	160,000	213,860
書籍売上げ	50,000	60,000	通信費(郵送)	350,000	355,439
自由ヶ丘幼稚園様より	—	150,000	行事運営費(新年会他)	100,000	110,422
カジタックスアイゼン販売収益	—	10,000	会議費	10,000	7,797
その他収益(30名山原稿料)	10,000	48,060	団体加盟費	10,000	10,000
委員会残金繰入	—	87,733	慶弔費	30,000	0
利息	—	1,454	委員会費用	510,000	510,000
			ルーム賃借料	740,000	740,568
			森の音楽祭	150,000	0
			事業積立金	667,003	667,003
			予備費(登山教室テキスト・運営補助)	715,660	321,900
			27年度への繰越金	—	922,349
収入の部合計	4,492,663	5,290,150	支出の部合計	4,492,663	5,290,150

(2) 事業積立金

25年度からの繰越金	2,332,997	27年度への繰越金	3,000,000
一般会計から繰入	667,003		
収入の部合計	3,000,000	支出の部合計	3,000,000

(3) 遭難対策初動基金

25年度からの繰越金	2,000,000	27年度への繰越金	2,000,000
収入の部合計	2,000,000	支出の部合計	2,000,000

(4) チャレンジ基金

25年度からの繰越金	1,500,000	27年度への繰越金	1,500,000
収入の部合計	1,500,000	支出の部合計	1,500,000

平成27年度事業計画

期 日	内 容	担 当
1.公益目的事業		
(1)登山に関する文化・学術の振興事業		
毎月1回	猿投の森 自然観察会	猿投の森づくりの会
通年	樹木調査	猿投の森づくりの会
上期	インドヒマラヤ登山の記録本「インドヒマラヤ」の編集・出版	インドヒマラヤ編集委員会
(2)児童・青少年の育成事業		
4月25・26日	SON・愛知支援登山 朝明茶屋をベースに朝明溪谷・ブナ清水～青岳 御在所フェスティバル	ボランティア委員会 青年部
10月10日・17日	親と子のふれあい登山教室(尾高山)	ボランティア委員会
11月14日	森の探検隊(幼稚園児森林体験) 猿投の森	猿投の森づくりの会
(3)スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業		
	中日文化センター登山教室 開講(年2期開催 1期6ヶ月)	登山教室委員会
	朝日カルチャー春期登山教室開講	登山教室委員会
	NHK文化センター春期登山教室 開講	登山教室委員会
	中日文化センター山ガール登山教室 開講	登山教室委員会
5月10日	春のブライズ登山(視覚障害者支援登山)	ボランティア委員会
6月20日・21日	夏山フェスタ への協力	夏山フェスタ実行委員会
	中日文化・朝日カルチャー・NHK文化 各センター秋期登山教室 開講	登山教室委員会
11月初旬	秋のブライズ登山(視覚障害者支援登山)	ボランティア委員会
随時	一般公募による登山教室の開催 合宿訓練	支部友会 青年部

(4)事故防止事業

随時	読図山行 計10回実施	図書委員会
秋	チェンソー慣熟訓練 遭難予防講習会 山岳救助訓練などの開催補助	猿投の森づくりの会 遭難対策委員会・山行委員会・青年部

(5)山岳環境保全事業

4月18日・19日	第9回日本山岳会森づくり連絡協議会開催	猿投の森づくりの会
通年	猿投の森及び東大演習林における森づくり	猿投の森づくりの会
通年	JAC山桜フィールド整備	猿投の森づくりの会
通年	人工林・遊歩道・幹線林道・管理車道整備	猿投の森づくりの会
通年	植生・草本類など保護育成位整備	猿投の森づくりの会
通年	定点カメラによる猿投の森哺乳動物の継続調査	自然保護委員会
6月11日	「春日山原始林」の自然観察会	自然保護委員会
7月11日～12日	JAC自然保護全国集会	自然保護委員会
9月27日	HAT-J 協力清掃登山（鈴鹿山系水晶岳）	自然保護委員会
10月24日～25日	第19回森の勉強会・猿投の森他（関西・京都・東海共催）	自然保護委員会

(6)国際交流事業

日中韓学生交流登山隊の派遣(中国) 青年部

(7)その他目的を達成するための事業

10月24日 森の音楽祭 と自然観察会他 森の音楽祭実行委員会

2.共益事業

5月16日	支部通常総会	総務委員会
年6回(隔月)	支部友ミーティング	支部友会
毎月3～5回	支部友山行	支部友会
毎月3～4回	支部定例山行	山行委員会
毎月1回	亀の会定例山行	亀の会
随時	自主山行(日帰り+宿泊山行)	亀の会
毎月1～2回	東海Youth 定例山行	東海Youth
1月16日	支部新年懇親会(高砂殿)	総務委員会
3月15日～20日	第15回東海岳人写真展	写真展実行委員会

平成27年度予算

(1)一般会計

[金額単位：円]

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期繰越金	922,349	支部報発行費	600,000
支部会費	1,200,000	支部ガイド発行費	300,000
支部報・ガイド広告料	235,000	文書印刷費	50,000
本部からの支部助成金	800,000	コピー機リース費	250,000
同上(支部活性化)	56,000	事務用品・消耗品費	50,000
登山教室講習収益	900,000	通信費(Tel・IN)	200,000
書籍売上げ	30,000	通信費(郵送費)	350,000
その他事業収益	10,000	行事運営費(総会,新年会他)	100,000
		会議費	10,000
		団体加盟費	10,000
		慶弔費	30,000
		委員会費用	400,000
		ルーム賃借料	740,000
		森の音楽祭	160,000
		登山教室運営補助金	200,000
		写真展会場費	146,400
		支部活性化(入会金補助)	400,000
		予備費	156,949
収入の部合計	4,153,349	支出の部合計	4,153,349

(2)事業積立金

26年度からの繰越金	3,000,000	事業活動費	3,000,000
収入の部合計	3,000,000	支出の部合計	3,000,000

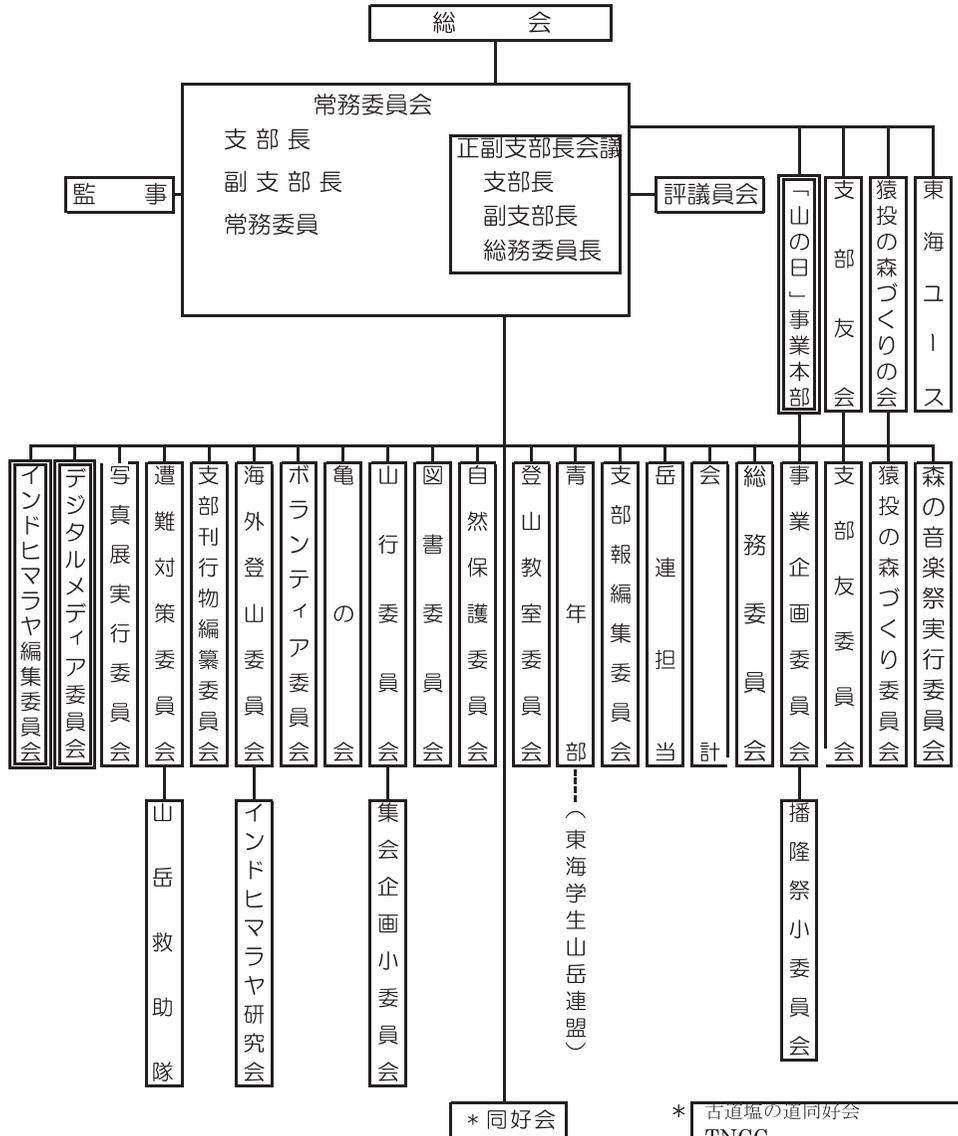
(3) 遭難対策初動基金

26年度からの繰越金	2,000,000	北アルプス遭難対策費用	500,000
		他 対策初動費用	1,500,000
収入の部 合計	2,000,000	支出の部 合計	2,000,000

(4) チャレンジ基金

26年度からの繰越金	1,500,000	青年部カテゴリーアソシエート連続登攀	100,000
		その他対象者称揚	1,400,000
収入の部 合計	1,500,000	支出の部 合計	1,500,000

公益社団法人日本山岳会東海支部
平成27年度組織図



- ・「山の日」事業は支部全体の行事であり、各委員会に協力を求める必要があるため、委員会の上位組織として、「山の日」事業本部を設置する。
- ・正副支部長会議はチャレンジ基金等の用途を含めた支部業務全般の調整を行う。
- ・インターネット小委員会を総務委員会から分離しデジタル・メディア委員会とし、ホームページ及び必要な資料の維持管理を行う。

- * 古道塩の道同好会
- TNCC
- ネパール文化研究会
- 山の自然学研究会
- コマクサの会
- 岳紳（ざいる）
- スケッチクラブ
- 東海アルパインスキークラブ

2 重枠は新規

平成 27 年度 役員

名誉支部員	: 石原國利				
支部長	: 小川 務				
副支部長	: 柴田清康	山田明美	高橋玲司	佐野忠則	
監事	: 中世古直子	野呂邦彦			
常任評議員	: 尾上 昇				
評議員	: 石川富康	大口瑛司	杉田 博	長坂 博	箕浦靖夫
	横田明信	鈴木常夫	梶田民雄	橋村一豊	

常務委員会	委員長	常務委員会	委員長
猿投の森づくりの会	: 和田豊司 (代表)	登山教室委員会	: 天野俣明
「山の日」事業本部	: 小川 務 (本部長)	自然保護委員会	: 南川陸夫
東海ユース	: 山田明美 (代表)	図書委員会	: 石田文男
支部友委員会	: 尾上 昇	海外登山委員会	: 高橋玲司
総務委員会	: 毛利邦男	ボランティア委員会	: 前田隆久
会計	: 市川義行	支部刊行物編集委員会	: 星 一男
岳連担当	: 市川義行	遭難対策委員会	: 野呂邦彦
山行委員会	: 鈴木慎吾	写真展実行委員会	: 井上寛之
亀の会	: 加藤守彦	森の音楽祭実行委員会	: 箕浦靖夫
支部報編集委員会	: 星 一男	デジタルメディア委員会	: 井上寛之
事業企画委員会	: 毛利邦男	インドヒマラヤ編集委員会	: 沖 允人
青年部	: 藤寄正智		

□ は前年からの変更者。枠なしは重任

故田辺 治氏の夫人 ともみさんがルーム訪問 遺品を寄贈



左 ともみ夫人、右 尾上氏



去る 3 月 21 日、故田辺 治氏夫人ともみさんがルームを訪問。尾上氏が対応。田辺さんの思い出話に暫しの時を刻む。併せて遺品の寄贈を受けた。

遺品リスト：ツェルト、ホエーブス、燃料ビン 3 本、アルミマット、ガスバーナーセット一式

上記遺品の受領を希望される方にはお分けします。

編集担当 星 一男までお申し出下さい。

荒島岳遭難事故経過報告

東海支部副支部長 柴田清康

平成27年4月12日、日本山岳会東海支部の大島忍さんは、福井県の荒島岳(1523m)南面・荒島谷川の標高620m付近で滑落により死亡する事故に遭った。

この山行は個人山行ではあるが、支部の中樞を担う5人のパーティーであったことに鑑み、パーティーのメンバーによる原因究明に加えて、直接的原因のみならず間接的原因さらには心理的背景に至るまでの検討が必要と考える。以下、事故の状況報告は石田リーダーによる。

山行日：4月11日～4月12日

メンバー：CL石田文男、SL吉田俊紀、SL大島忍、前田純子、遠藤ちさと

発生日時：2015年4月12日10時37分頃

発生場所：荒島谷川第5堰堤・荒島岳東稜線1465mピーク南稜下部620m付近

死傷者：大島忍・死亡、吉田俊紀・右足踵はく離骨折、前田純子・顔面打撲と右足踵複雑骨折、石田文男・遠藤ちさと2名無傷

救助連絡者：石田文男

救助待機地点：N35° 55' 24.44"

E 136° 36' 50.83"

行動：12日、午前6時、登山口近くに駐車後(予定より35分遅れ)ワカン着用出発し、6時30分頃入渓。

7時40分頃、第4堰堤手前着。1時間20分程の遅れに、13時30分めで引き返しを考える。

30分程食事しながらこの堰堤上の雪面道路トラバースは難しいと判断、高巻くことにする。石田トップで少し上の斜度のある雪面から取り付く。岩・木々に掴まりながら30m強直上、上半分程はザイル使用。

40m程上がった所に5人集まる。ここを頂点に石田トップで細い木を

使いながら後ろ向きで斜めトラバース気味に下降。最後10m程は斜度がありコンクリートのり面で着地点2mは垂直。ややハング気味、ザイル・プルージックなどで下降。

堰堤上流側へ全員下降が10時頃。ザイル回収後安全な場所(610m)に移動(30m)。アイゼン着用、先のルート確認、長めの休憩。

10時半出発。5本目の堰堤をやり過ごそうと傾斜10度程の雪面トラバース(幅5m程)にかかり、石田・前田・大島・吉田・遠藤の順で進み40mも行くと①目前に握り拳大の石・木片混じりが幾つか落ちてくるのが見えた。

吉田の「引き返そう」に石田同意。②その直後、粗目雪・倒木・小石混じりが落ちてきた。それに足を掬われるように吉田・遠藤以外転倒(石田・前田・大島)僅かに流されたが薄層だった為3人とも停止した。倒木には当たっていない。

すぐさま「撤退」と叫びながら引返し始めた直後、同規模程度の崩落が来た。石田・前田はピッケルで止まり遠藤は頭部に粗目雪が当たったと言う。「大島・吉田さんがいない」と叫んでいると吉田が下流側急斜面下10mほどの所で動いているのが確認できた。



荒島岳周辺概念図

大島が見当たらず少し移動して第5堰堤基部あたりを確認していると、20m以上下の川原でうつ伏せに倒れているのが確認できた。遠巻き気味に石混じりの急な雪面を下った。

川原基部は2m程の補強コンクリート壁で半ば飛び降りた。一部膝上まで水に浸かり10m弱で大島位置着(10時45分頃か)。大島は谷心部に向き水深20cm程浸かる状態だった。頭を上、仰向けに変え1m程引き上げ、上半身は10cm位水に浸かった状態で、大声で呼び掛けたが、反応無く呼吸もしていなかった。頭部顔面は鋭い外傷でその瞬間が読み取れた。

手を合わせ離れてまもなく目の前に前田が滑落してきた。足から着地後、弾みで川原に転倒。滑落中の打撲に合わせ顔面の負傷。右足動作不能に陥り、2mばかり離れた小高い所に移り座って負傷を確認。飛沫がすごく雨合羽で少しでも濡れを防ぎ防寒対策。

11時20分、石田が上の吉田・遠藤に大島・前田の状況を伝えるのとその2人の状況確認のため、前田をそこへ残し下りルートの雪面を登り返した。往路トレースまで行くと2人は少し進んで高巻き後休憩した場所付近に居た。大島絶望、前田負傷を伝えると2人の安全位置を確かめ、すぐさま同ルートから前田救助に向かう。

現場では前田の補強壁上げに手間取り、大島所持ザイル使用(30~40cm間隔に結びを作り)で何とか急斜面を抜け、45分程かかり安全な吉田・遠藤位置へ4人集結。

この間、吉田・遠藤GPSで現在地確認、メモ書き作業。吉田・前田の負傷、防寒と全員の体調など確認し合い、13時過ぎGPSメモを手に石田・遠藤救助要請に向かうが石田1人が良いと判断し単独で下山。先程高捲いた4本目堰堤は往路に難しいと見た一部道路露出の斜め雪面をトラバースし、いくつものデブリを慎重に超えて行く。

途中何度も携帯通信可否確認しながら下る。

- 14時10分、通信可能になり救援依頼できた。
- 14時30分P地点着。
- 14時40分頃大野消防署員着・事情聴取。
- 14時50分頃大野警察署員着・同上。
- 14時55分頃福井県山岳警備隊員着。
- 15時12分防災ヘリ着(前田証言)。
- 15時30分頃吉田・前田・遠藤が救出。ヘリ～レスキュー隊収容確認、福井県立病院へ搬送。
- 16時大島収容～県立病院へ搬送。
- 16時10分過ぎ大島死亡が確認された。
- 吉田・前田はそれぞれの治療を受けた。
- 18時20分頃県立病院へ石田・吉田・前田遠藤の4人が集結出来た。
- 23時30分過ぎ大島及び家族面会のため柴田・山田両副支部長病院着。

尚、現在東海支部内で検証を行っており、次号に詳細報告を行うこととする。

東海支部俳壇

西山秀夫

伊吹北尾根

山路来て一人静のひそと咲く

天蓋山

奥飛驒の山みな雪を残しけり

五竜尾根捜索行

怒るごとく尾根の落石春雪嶺

山友を隠そうべしや春雪嶺

雪解谷靴履きのまま徒渡る

春の池水面に跳ねて波紋かな

奥三河・段戸山界隈彷徨

春ゴム底の剥がれて悔し登山靴

桶小屋の農家も開拓の夢破れて無人に

万緑や夢敗れても山河あり

裏谷に残る原始の夏木立

樹上より懸垂下降の毛虫かな



東海支部の蔵書からの一冊④

図書委員長 石田文男

『登山技術全書⑧』

「山岳地形と読図」平塚晶人著

「息を切らして山頂にたどり着く。あるいは井戸の底のような深い谷をたどる。その時、われわれが目にするダイナミックな風景を、地図はどのように表現しているのだろう」

(P4山と地形図から抜粋)

「山道を歩いていてぱっと展望の開ける一瞬がある。うねうねと続く尾根、その途上にいくつもある小さなピーク、草地の広がる平坦地、急登、そして本日最終目標の山。

それらを目で追っていると、さまざまな思いが想起する。ときにはあれ登るの、とうんざりすることも。そのときすぐに歩き出さないうで地図に目を通す。すると、その大変そうな登りが標高差にして80mしかないことが分かったりする。現在地を確認するためあるいは、これからの行程を予想するため。地図を読む目的はさまざまだ。しかし、地図を読むその意味は共通している〈大地のでっぱり〉である山を立体として理解することである」

(P10地図を読むということから)

この2節は我々がいつも山に登っているとき感じ、接していることだ。「地形図に接することは人さまざまに限りないものがある」と、よく言われるがまさしくそうであろう。一方で今もって山行の事前の読図、あるいは地形図の不携行を耳にするのは残念の一言。

地図にあまり関心をもたない人もあるが、山に登る以上必須だという認識をもって頂くために、地図を読めるようになりたい方、より読図力を高め地形図に向き合っていく方、ぜひ本書の一読をお勧めする。

以下は本書の目次の一部である。

・山の地形と地図表現 (概念図を書く)
・地図 (地図のパッキング) ・現在地の読み方 (地図を読む上で必要な感覚) ・コンパスの利用 (入山口での現在地確認) ・地図読みの総合技術 ・地図読みの実践 (地図読み上達のために) ・地図を読む意味 (地図が読めることの効用)。

ぱらぱらページを繰っていくと、・傾斜の変化、・ピークと等高線、・尾根と沢の分岐、

・山のでき方 (氷河地形)、・地図を読むうえで必要な感覚、・尾根道でのコンパスの利用、・地形図の管理・・・などに目がいき、つい引き込まれてしまう。本書を手

にし興味のもてるどころ、読みたいところから入れるのもよい。それにどの章も筆者の体感と言葉が伝わってくる。とくに各章にあるコラムには感動する。

2つの抜粋から。

「地図が読めることの最大の効用は、自分の位置を地図上正しく認識できることである。正しく認識しているとは、地形との対比で現在地を把握しているということ、かりに登山道から踏み外していても、地図の中で自分がどこにいるかをピンポイントで指し示せれば、それは正しく認識していることになる。逆に、踏み跡の上をちゃんと歩いていても、現在地を正確に示せないのであれば、それは道に迷っているのに等しい。なぜなら、その道が正規のものだという保障はどこにもないからである」

〈現在地を知ることの大切さ〉(P148) から。

「ひとつの山行が良いものであったかどうか、それを測るよいバロメーターは、山のなかでの記憶がたくさん残っているかどうかである。一場面一場面が蘇える山行はすなわち、よい山行である。そして地図を読みながらの山歩きは確実に記憶が残る。脳裏に刻みつけられた地形は、記憶喚起装置となってもいつまでも作動する。」

〈山は大地のでっぱり〉(P156) から。

わたしが伝えたい事の一部として捉えて貰えれば幸いである。この『登山技術全書』は12巻から編纂されている。

2005年～2007年発行 B5版

ページ数136～176 山と溪谷社 刊



Alpine express in the Canadian Rockies

青年部 山田利行



ストームマウンテン頂上 後ろのロッキーの山々が美しい

二つの再登と一つの初登

当初の計画ではカナディアンロッキーにあるマウントケフレン東壁の「ザ・ワイルドシング」、マウントテンプレート北壁の「グリーンウッド/ロックル」、マウントロブソン・エンペラーフェースの「インフィニットペイシェンス」という3つの第1級ルートでの再登計画を軸にグレイシャー国立公園にあるセルカーク山群での初登計画を考えていた。実際の成果としては、「ワイルドシングス」、「グリーンウッド/ロックル」の再登とストームマウンテンでの初登をすることができた。計画を変更した理由としては、天候が思ったより悪かった。例年のロッキーの4月下旬～5月後半は晴天が続くことが多い。いざ計画が始まってみると5月に入っても安定して1週間晴れが続くという流れは皆無で、せいぜい3日間の晴天を掴むことが精一杯であった。しかも一度雪が降ってしまうとたとえ天候が良くても雪崩が起きる可能性が十分にあるため、その点でも慎重になる必要があった。このような状態ではアプローチと下降を含めて最低5日以上かかるロブソンとそれと同等の日数が必要なセルカーク山群に関しては壁を見る事無く諦めるしかなかった。このような理由からワイルドシングスは2回のアプローチ、グリーンウッド・ロックルは4回のアプローチをして完登することができたのであった。この二つの再登をした後、なんとかもう一つ登りたいという思いからキャンモアから比較的近くでしかも冒険的で魅力的な壁を考えた結果、ストームマウンテンに行きついたのであった。この

山はバンフからレイクルイーズへ向かう途中にハイウェイから見える山でその北西面は切り立っていていつも気になっていた山であった。ワイルドシングスを登り終えた後、天候が悪い日が続いたので谷と偵察をした際にその壁の可能性は既に確認済であった。グリーンウッド・ロックルを完登した後、ストームマウンテンでの初登をするべくアプローチした結果、雪がかなり溶けてしまっていて（標高は同じでもキャンモア、バンフ周辺は雪解けが早い）当初考えていた魅力的なラインは登ることができなかったが、もう一つ可能性があるラインを無事に初登し「凧」- kogarashi - という名前をつけることができたのであった。このラインはその北西壁のもっとも弱点を突いたラインで壁の大きさ、難度的には少々物足りないことは否めないが、合理的で氷、岩、雪とバランスの取れたラインでとても楽しかった。

最後に今回の計画を応援して頂いた日本山岳会東海支部の皆様、ウェア協力をして頂いたパタゴニア様、テントを貸して頂いたチーム猫屋敷の伊藤さんに深くお礼申し上げたい。

行動記録

マウントケフレン東壁 The Wild thing (VI, M7, WI5, 1300m)



The Wild thing 登攀ルート 写真：谷

4月17日(晴れのち雨) 7時：キャンモア 発
9時：駐車場 11時30分：森林限界キャンプ
サイト 17時：雨のため敗退 18時分：駐車

場 20時：キャンモア 着
 4月19日(晴れ) 24時：キャンモア発 2時：
 駐車場 4時:The wild thing
 取りつき 4時30分：クライミング開始 11
 時：下部岩壁 22時30分：第三岩壁下でビバーク
 4月20日(晴れ)4時：クライミング開始 16時：
 頂上 16時30分：下降開始 23時40分：駐車場
 マウントテンプレート北壁 Greenwood-Locke(V,
 M6, 1300m)



Greenwood/Locke 登攀ルート 写真：谷

4月24日(偵察)7時：キャンモア 8時：モレーン
 レイク沿い 駐車場 12時：アネッテレイク
 13時：下降開始 16時：駐車場 17時：キャン
 モア
 5月2～3日(雪質不良で敗退) 3時：キャンモ
 ア 4時：モレーンレイク沿い駐車場 7時：ア
 ネッテレイク※山田 湖に落ちる 8時：下降
 開始 11時：駐車場 12時：キャンモア※衣類
 を乾かす 19時：キャンモア 20時：モレーン
 レイク沿い駐車場 23時：アネッテレイク 24
 時15分：取りつき 24時30分：下降開始 3時3
 0分：駐車場 4時30分：キャンモア
 5月8日19時：キャンモア 20時：モレーンレイ
 ク沿い駐車場 22時30分：アネッテレイク 2
 3時30分：クライミング開始
 5月9日
 3時30分：岩壁部取りつき 4時：クライミング
 開始 16時：ヘッドウォール 1P手前 18時3
 0：ヘッドウォール下の雪庇上でビバーク
 5月10日4時30分：クライミング開始 11時45
 分：ヘッドウォール取りつき 15時30分：最終
 バンド
 18時30分：稜線 19時：下降開始 20時30分：
 西稜下降開始 23時15分：レイクアネッテ
 5月11日1時30分：駐車場 3時：キャンモア

ストームマウンテン北西壁 FA 凧-Kogaras
 ahi-(III, 5. 6, WI4, 350m)



凧 登攀ルート 写真：谷

4月28日(偵察)
 10時30分：キャンモア 11時半：ツインレイク
 駐車場 14時：アッパーツインレイク手前 1
 6時：駐車場 17時：キャンモア
 5月17日
 11時：キャンモア 12時：駐車場 14時30分：
 アッパーツインレイク手前 キャンプサイト
 17時：壁基部 荷物デポ 18時30分：キャンプ
 サイト
 5月18日
 4時：アプローチ 6時：クライミング開始 11
 時30分：稜線 12時：頂上 12時30分：北陵下
 降開始 18時：アッパーツインレイク 19時：
 キャンプサイト 21時50分：駐車場 22時30
 分：キャンモア

メンバー

谷 剛士 (ヤムナスカマウンテンツアーズ
 /ACMG公認 ロック&ハイキングガイド)
 山田 利行 (ヤムナスカマウンテンツアーズ
 /日本山岳会東海支部 青年部/社会人山岳
 会 チーム猫屋敷/南山大学アルパインクラ
 ブOB会)

尚、今回の登攀については、日本山岳会東海
 支部のチャレンジ基金の資金援助を受けて
 の計画である。

※チャレンジ基金：支部員で評議員の石川富
 康氏の寄贈により始まり、挑戦的な登攀をす
 る若者への支援を目的とする基金。山田支部
 員が基金対象の第一号。数多くの支部員の応
 募を期待している。

ボランティア活動と登山

—春のボランティア登山報告—

ボランティア委員会委員長 前田隆久

ボランティア委員会の春の2大行事が、皆様のご支援で無事終了いたしました。事業報告の前に、岡山ライトハウス(視覚障がい者のための福祉施設)の理事で、ご自身も全盲の竹内昌彦さんの講演記録の一部を引用いたします。「今、日本で400人子どもが生まれてくるとその中で一人、目の見えない子が出るのです。一人、耳の聞こえない子が出るのです。あと20人ほどが、知的情緒、手足の障がいを持って生まれてきます。そして、380人が、元気な体をもたらえるのです……。皆さんの耳が今聞こえるという事は、どこかに、聞こえない人生を引き受けてくれた人がいるということです……。そういう人のために、皆さんの幸せの1%でいいから出してやってもらいたいのです。幸せが1%減るけど、自分のことばかり考えて終わる人生に比べたらはるかに値打ちが出て輝きます。」(『ロータリーの友』2015年5月号から転載)

障がい者支援登山は東海支部の恒例行事として行っていますが、本質は、山が好きで、山を趣味としている私たちが、私たちにできるやり方(登山)を通して、1%の幸せを出していることなのではないかと思いました。ボランティア登山に協力して下さる皆さんは、意識しているか、していないかにかかわらず、たぶんその値打ちにどこかで共感して参加して下さっているのではと思います。では、今年の春の行事を報告します。

知的障がい者支援登山「山岳会と一緒に登山2015」は4月25・26日の2日間、菰野町の朝明茶屋をベースに、SON愛知のアスリート(知的障がい者)7名、保護者7名、SON愛知7名、東海支部34名(学生8名)が参加して行われた。昨年は雪の舞う中での開催だったが、今年は開催日を遅らせたこともあって晴天に恵まれ、伊勢谷から



アスリートとその支援者の皆さん

ブナ清水を経てヤシオ尾根經由青岳の往復コースを、約7時間かけて全員登った。

1日目の夜は、恒例の飯盒炊爨、キャンプファイヤーで楽しみ、2日目の登山も、恒例の山頂での学生による豚汁の炊き出しがあって、アスリートたちの喜んだ顔が印象的だった。

視覚障がい者支援登山「春のブラインド登山」は、5月10日(日)東濃の屏風山で行われた。視覚障がい者11名、同伴者4名、東海支部28名(学生4名)に、NHKプラネットのディレクターが1名参加して行われた。福祉バスが大型のため当初予定の登山口までは乗り入れが難しいとのことで、急遽ルートを「大草北ルート」から屏風山山頂へ、「大草南ルート」で下山の周回コースに切り替え行った。爽やかな天気にも恵まれ、山行を楽しんで全員無事名古屋に戻った。山頂では、学生が運び上げたスイカのサプライズもあり喜ばれた。NHKプラネットディレクターの話が客観的なので紹介します。「自然体の登山であったことに驚いた。ブラインド登山者も支援者も、もう少し構えた山歩きになると思っていた。すぐ来月企画という形ではないが、長い目で継続的に取材を続けていきたい。」



ブラインド登山の皆さん

今年は、昨年から始めたボランティア登山支援者登録制度による行事の周知の成果もあって、例年になくたくさんの方に参加していただきました。こんなにたくさんの方に参加をしていただく必要があるのかという意見もありますが、この二つの登山を事業としてとらえるのではなく、冒頭で述べましたように意味は別の所にあると考えた場合、より多くの方に参加していただく意義は十分にあると思います。これからも、ボランティア委員会の活動を通して、多くの方に障がいを持つ方への理解が深まればと思います。

猿投の森で“観桜会”開催

猿投の森づくりの会 代表 和田豊司

町の中の桜(ソメイヨシノ)が散ると近郊の山桜が、芽吹き始めた薄きみどりの山肌を白く咲き始める。今年も4月11日(土)猿投の森で“観桜会”が開催された。

猿投山の北西斜面には直径1m程で樹齢200年を越える山桜の巨木が8本、直径7~80cmの準巨木が13本ある。瀬戸の山は江戸から明治にかけて窯業や薪炭採取のためハゲ山になってしまったが、山桜は伐採をまぬがれ生き残った。なぜ伐採をまぬがれたかとの疑問に対し「猿投の森づくりの会」の多くの方は、日本人の桜を愛する気持ちが伐採を思いとどませたとの見方であった。しかし、猿投山の南山麓に住む支部員のM氏は別の説を唱える。その説は“桜は固くて捻っていて重いので搬出しにくいいため切らなかった”という。さらに別の説は“山桜は成長が早いので意外と樹齢は高くない、巨木になりやすい。200年もたっていない”という人も出てきた。どの説が本当か検証するのが楽しみである。

さて観桜会当日、朝方は曇りであったが、次第に天候が回復して絶好の鑑賞日和となっ

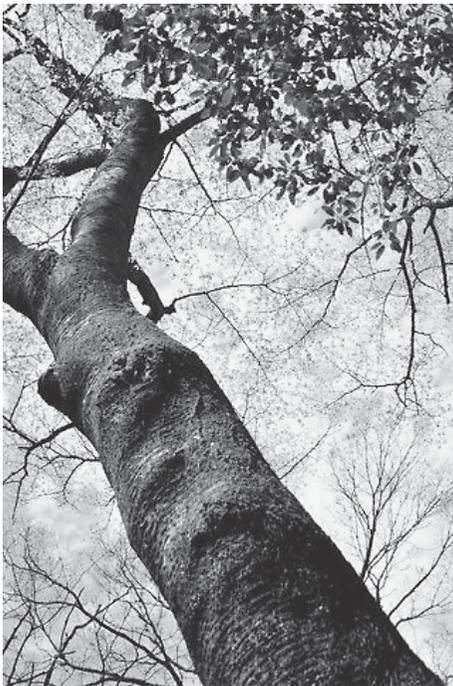


4月11日(土)の山桜

た。会員のみならず、支部員、大須ロータリークラブ、国際ワケキャンプ(NICE)の若者、案内で集まった一般の方など総勢37名の参加があった。坂井副代表の桜の品種改良の話聞きながら観察である。抜けるような青空に薄茶色の新芽と白い花びらが印象的であった。

上を見上げれば山桜が咲き誇っているが、森にはミヤマシキミ、シュンラン、マキノスミレ、フデリンドウ、コバノミツバツツジ、オオカメノキの花、スズカカンアオイも花を

付けていた。林床では、ビロウドツリアブ、ハナアブが忙しく飛び回り、キタキチョウ、ルリタテハが舞い、野鳥ではコゲラ、シジュウガラ、センダイムシクイが飛び交い美しいオオルリも確認。いつもは作業で汗だくになるが、しばし自然の美しさを楽しむ楽しい一日であった。



山桜の巨木



観桜会での様子

同好会紹介コーナー

東海支部員が有意義なクラブライフを享受するための組織として同好会が発足しています。同好会とは、支部の仲間が同好の士と東海支部の事業目的に沿った多様な活動を通じて有意義なクラブライフを享受しようとする集りで、常務委員会への設立報告に基づいて登録された会をいいます。東海支部員・支部友会員なら誰でも入会自由です。同好会規約及び設立の申込み方法は本年度の支部ガイドに記載してあります。

古道塩の道同好会 山中光子
観光に役立つ看板が建った！！



杣路峠へ入る看板

杣路峠とは、愛知県の県境を越え長野県に入る古道にある武田信玄や伊能忠敬が通った峠。古道塩の道を探すにあたり、訪れた長野県根羽村の教育委員会の課長さんは、古道に関する事



根羽村教育委員会による看板

にととても詳しく、本当に細かい事までお世話になった。

私達が古道塩の道調査の為、何度も当地を訪問し尋ね歩いた事で、最近道案内の看板が出来た！根羽村観光の手助けの一歩になったと自負する。

スケッチクラブ 村中征也
伊勢志摩の風景と味覚を満喫



安乗岬灯台にて

5月21～22日伊勢志摩への1泊2日のスケッチ行を楽しみました。昨年は、白馬へ山を求めての旅でしたので、今回は海へ。

最初は、伊勢神宮の外宮を参拝して軽くスケッチ。僕は伊勢市出身で、母校の宇治山田高校が外宮の西隣だったので、見逃されている静かで情緒豊かな神域をご案内したかったから。

内宮前を素通りし、磯部道を通って志摩市鶴方の横山展望台へ。眼下に展開する英虞湾の絶景に圧倒され、画筆を取りだすのを忘れる程でした。

宿は、志摩市志島のシャカペンション、熊野灘を見渡す絶好の位置。温泉に入り、名物の鉄板焼きに、遠路来た甲斐があったと喜んで頂きました。

翌日、早起組は海岸へ。4時29分の日の出と125km離れた富士山を洋上に認めスケッチ。

今回の目玉は、宿から20分の安乗岬灯台。明治6年点灯の日本で最も古い灯台の1つで、映画「喜びも悲しみも幾年月」の舞台にもなった。生憎補修の足場が組まれていたが、海を隔ててすっと立つ姿を時間忘れて描いた。

パールロードから鳥羽へ、途中の海産物屋で土産を買ってから帰途に着いた。

スケッチクラブは、絵の素養無くても、山と自然を愛し、仲間と楽しく過したい心があれば誰でもOKで、会員が少しずつ増えております。会費ゼロで門戸開放、気軽に声を掛けて下さい。

事務局…村中征也・加藤和子・武内喜代子
代表…杉田博

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画(平成27年9月～11月分)

平成 27 年

9 月 28 日(月)木曾の南木曾岳(1,677m)

☆☆ リーダー：伊藤康信 締切：9 月 8 日

10 月 17 日(土)若狭の西方ヶ岳(764m)

☆☆ リーダー：酒井 広 締切：9 月 27 日

10 月 19 日(月)飛騨高地の靱糠山(1,744m)

☆☆ リーダー：伊藤康信 締切：9 月 29 日

10 月 25 日(日)鈴鹿の藤原岳(1,140m)

☆ リーダー：村瀬恭平 締切：9 月 25 日

11 月 1 日(日)敦賀の野坂岳(913m)

☆☆ リーダー：酒井 広 締切：10 月 12 日

11 月 6 日(金)鈴鹿の雨乞岳(1,237m)

☆☆ リーダー：伊藤康信 締切：10 月 17 日

11 月 15 日(日)奥美濃の小津権現(1,158m)

☆ リーダー：榊 将美 締切：10 月 26 日

11 月 16 日(月)鈴鹿の仙ヶ岳(961m)

☆☆ リーダー：田中 進 締切：10 月 27 日

次回支部友ミーティング

開催内容のお知らせ

- ① 第13回『最新の登山グッズ』
日時：8月11日(火)19:00～
講師：駅前アルプス 千葉泰丈氏
- ② 第14回『朝明ミーティング』
日時：10月3日(土)～4日(日)
バーベキュー、キャンプファイア、分散登山
—おしらせ—

支部友会員数

平成27年5月現在/42名

ホームページのリニューアルについて

日本山岳会東海支部のホームページ内の支部友会をリニューアルしました。

山行申し込み状況も確認できます。

山行対象者：支部友会員及び支部会員

申込み方法

- ・支部友会員は申込締切日までに、各山行リーダーが示す方法で申し込む。
- ・締切日 原則山行日 20 日前まで。(締切日を過ぎての参加空き情報はリーダーに直接問い合わせ下さい)
- ・支部会員は申し込み締切日の翌日以降に、各山行のリーダーへ問い合わせる。
- ・山行の募集人員を超えない範囲で、支部会員の参加申し込みを受け付ける。

リーダー連絡先

酒井 広 電話・FAX：0568-92-6137
メール：hiroshi19540419@na.commufa.jp
伊藤 康信 携帯：090-2577-8137
メール：kobitokaba@mediacat.ne.jp
村瀬 恭平 携帯 090-4186-9876
メール：hoshizakari@ezweb.ne.jp
榊 将美 携帯：090-7237-4410
FAX:052-710-7089
メール：m.sakaki@minds-consulting.jp
田中 進 携帯 090-9191-8666
メール：t-susumu@peace.ocn.ne.jp

個人山行も J A C 東海登山届けを！



専用携帯電話

080-2632-3776

◎支部友山行は、支部友のみが参加条件でしたが、今年度から空きがあれば支部員の皆様にも参加いただけることになりました。

申し込み方法は、上記をご覧ください。

委員会報告

【亀の会】

1 今年度の「亀の会」方針

7月で亀の会発足9年を迎えます。退会者もなく、そのまま歳を重ねていますが、元気に山歩きを楽しんでいます。会員数は57名です。

本年度の主な課題は、次の二つです。

①「みんなで運営」へ転換

スタート時から「山行計画や、山行リーダーは、サポーターの役目」「会員は連れてってもらう人」的な雰囲気、運営されてきていましたが、従来のサポーターも健康や家庭の事情で機動力が落ちてきています。新しいサポーター確保も、ままたらぬことから、「みんなで運営」に力点を移すことにしました。

- ・従来のサポーターは、機動リーダーに回り、班のリーダーは会員がする。

- ・山行も「会員担当」を増やす。(今年、数件実施の見通しです。)

②「山での事故発生時の対応の手引(亀の会編)」の見直し

本年4月の荒島岳での身近な人の遭難は、身を引き締めて受け止めています。亀の会は、2011年2月に、「山での事故発生時の対応の手引(亀の会編)」を作成していますが、このたびの事故を教訓として、1年ほどかけて見直しをすることにしました。

月例山行のバスの中や、運営会議で検討していきます。公式行事だけでなく、個人山行も含めて意見交換をしていく予定です。

2 「亀の会」会員は、幅が広い

「亀の会会員は、『ヨタヨタ高齢者の集まり』と一部の人々に思われているようで、心を痛めています。65歳以上という年齢制限があることから、そのように思われるのでしょうか？

亀の会は「ゆっくりペースで山歩きを楽しむ。」という共通認識を持った人たちの集まりです。会員の中に、今年、剣岳や八峰キレットに挑戦すべく、藤内壁や南山で岩登りのトレーニングを受けている人もいます。亀の会の会員の裾野は広いです。このような元気一杯のメンバーも混じって亀の会が活性化され、楽しい山行ができています。

3 傘寿記念山行で、西丹沢の不老山928mへ行ってきました



傘寿記念山行で不老山にて

「深田クラブ」の会員である亀の会の重鎮・最高齢者の大坪重遠さんから紹介された「シニア百山」(高齢者が登るに相応しい山・百山を選定)に「不老山」(西丹沢)を見つけ、本年の亀の会の傘寿記念山行の山としました。金山駅から登山口の八重桐の池(坂田金時の生母を記念してできた公園)まで車で4時間強、歩行時間も4時間強(亀ペース)。遠い道のりでしたが、新東名高速道路の緑滴る木々と山々の中、往路は「10分間講座」とおしゃべり。復路は、酒盛りと心地よい午睡で退屈しないものでした。八重桐の池から林道、鉄塔巡視路、登山道と変化に富んだ路を歩き、山頂では「サンショウバラ」が花を咲かせて、我々を迎えてくれました。

今年傘寿(数え歳)を迎えられたのは、志賀傳さん、三嶋 正さん、鈴木 隆さん(欠席)です。満85歳の大坪さん、女性最高齢の満82歳の谷さんを始め傘寿を通過した人7人を始め総員25名。すれ違った登山者3人。ほとんど貸し切りで、元気いっぱい山歩きを楽しんできました。



元気いっぱい楽しみました

【自然保護委員会】

東海支部自然保護委員会では、自然観察山行、森の勉強会、猿投の森づくりの会の活動、H A T-J-との清掃登山などを行い、日本山岳会会員に限らず自然保護について関心を持っていただくための活動している。

平成27年度活動（実績と今後の計画）

1. 第9回「全国森づくり連絡協議会」へ参加

今年度は当支部の猿投の森づくり会が担当で、4月18日～19日に東大演習林、猿投の森にて開催された。参加支部（高尾の森、関西支部、広島支部、四国支部、岐阜支部、東海支部）その他吉川担当理事、川口自然保護委員長他32名の参加者を得て開催された。内容は東大演習林の蔵治所長による“森と水の関係、矢作川流域の市民・研究者・行政が一体となった森づくり”の講義を聴き、シデコブシの会の案内で東大演習林の赤津研究林を案内した後、猿投の森を見学して散会となった。

2. 自然観察山行を行う



山辺の道から三輪山を望む



春日山原生林の植生視察

特徴的な自然生態や自然環境を対象とした「自然観察山行」を毎年実施している。本年度は13名の参加者で、6月14日～15日、奈良県の世界文化遺産に登録された貴重な「春日山原始林」の照葉樹林の観察、我が国古代最古の霊地「三輪山」昇登と日本最古の道の文化交流の道、山辺の道の植生視察をした。

3. 日本山岳会自然保護全国集会

今年度は五十周年を記念して7月11日～12日に東京都青梅市の「かんぼの宿 青梅」にて開催される。テーマは「日本山岳会の自然保護活動を振り返り、これからを考える」である。

第1日には、基調講演として「南アルプスを貫くリニア新幹線の自然破壊」の座学が、第2日には、3コース設定されたフィールドスタディへの参加を予定している。

4. 第19回森の勉強会

例年京都・滋賀支部、関西支部、東海支部の自然保護委員会が共催して開催されている行事である。本年度は京都・滋賀支部が主管となり、10月24日～25日に京都嵐山周辺にて計画されている。多数の参加を期待している。

5. その他の報告

「猿投の森」での動物調査

① 両生類と水生生物の調査した。

平成26年3月2日～8月19日、延参加人数18人、調査時間延31時間。調査場所は、猿投の森の山路川水系、湧水地等で行った。

② 野生動物（哺乳類）の調査

昨年来より定点地、三箇所を固定して、遠赤外線カメラ3台による動物調査を継続実施している。



カモシカの姿も

自然保護委員長 南川 陸夫

会 務 報 告

【2015年2月常務委員会】

日時：2月25日（水）19時00分～21時00分

1. 支部長挨拶(小川)：1月に遭難した池田隼人氏発見されていないとの報告と同時に捜索活動の現況今後の計画について説明あり。本部から有志が捜索に出ており東海支部にも捜索活動参加の打診があったが、お断りをしている状況である旨報告。東海支部として捜索活動に参加するためには地元警察の許可並びに捜索の指揮系統の一本化が必要と認識している。生存の可能性がないにも拘わらず、2次遭難の危険のある捜索は避けたいことも現時点での捜索活動参加に否定的である理由である旨高橋副支部長から補足説明あり。

「山」2月号にて吉川理事がヨーロッパの山岳会の現況を解説しながら、逼迫した日本山岳会の財政状況を改善するための解決策の提案記事を書いているが、アメリカ山岳会の現状も参考になるのではないかと提案する予定である旨報告。

2. 委員会報告

①会計（市川）：東海支部では年会費の未納が3年間続いた場合は会員資格を失う規定になっているが、その規定にひっかかる可能性のある支部員が3名いる旨報告。

各委員会は、H26年度の会計報告、関連領収書を3月の常務委員会までに提出すると同時に、残金の清算も行ってほしい旨依頼

②支部友委員会（酒井）：配布された2月度議事録に基づきH26年12月～H27年2月の山行実施状況説明。2月10日開催された「日本百名山を登る楽しみ方」の講演会はOMCビル4Fに会場を移して開催七十数名の参加があった旨報告。

③山行委員会（石田）：配布された議事録を基に月例山行の進捗状況およびH27年度の支部山行の進め方につき説明。先日130名ほどを対象に実施したアンケート調査は27%の方からの回答があり、アンケートで示された要望を今後の山行計画立案に出来る範囲で反映させたい旨報告あり。リーダーについては予定している13名の方全員が引き受けて頂けそうである旨報告。

④亀の会（加藤）：2月の山行も天候悪く中止とした旨報告、これで12月から3ヶ月連続で中止となったとのこと。

⑤猿投の森づくりの会（和田）：配布された定例報告をもとに活動報告。山桜フィールドの整備がかなり進んでおり、ウッドデッキ設置の為の基盤もほぼ完成したとのこと。

会の規約を改定すべく検討中で、改定案を3月の常務委員会に諮る予定である旨報告。

3月25日中日パレスにて開催予定の悠々自適セミナーにて講演予定であるので、時間のある方には参加の申込をお願いしたい旨要請。

⑥東海 YOUTH(山田)：配布された2月活動報告書をもとに会員動向、山行報告並びに山行計画の説明あり。

⑦支部報編集委員会（星）：支部報No.141の原稿の受領状況の報告と未だ原稿が出ていない分については2月28日までの原稿の提出の依頼。

⑧登山教室（鈴木）：配布された2月度議事録をもとに1月・2月の山行報告、H27年度運営委員・現地指導員の退任・新任の紹介、4月以降のバス代につき報告。また3月25日中日パレスにて開催予定の中日新聞主催の悠々自適セミナーには和田さんに講師をお願いし、展示ブースにも参加予定である旨報告。

⑨自然保護委員会（南川）：配布された2月度議事録をもとに2014年度の活動報告並びに2015年度の行事予定につき説明。

⑩ボランティア委員会（前田）：配布された報告書をもとに春のブラインド登山の内容説明（5月10日屏風山の予定）と同時に協力者の参加要請、並びにボランティア情報交換会の収支報告。

⑪青年部（藤寄）：2月7・8日に八ヶ岳にて冬山合宿を行った旨報告。ホームページを現在のブログに加え作成したので東海支部のホームページにリンクをするよう要請。

(<http://jactk-seinenbu.main.jp>)

⑫遭難対策委員会（野呂）：藤内壁で大垣の62歳の男性が滑落、たまたま現場近くに居合わせた高橋副支部長が救助活動並びに心肺蘇生を行った旨報告。但しこの男性は蘇生することなく死亡したとのこと。

⑬写真展実行委員会（井上）：去る2月4日委員会を開催し役割分担を決定した旨報告。撮影山行については2月22、23日に西穂独標を北八ヶ岳に変更して実施、3月にも北八ヶ岳の撮影山行を予定している旨報告。来年3月予定の

写真展会場については 2 部屋に増やすことを検討しているため、その場合は会場費の増額分も支部会計から助成して欲しい旨要請があった。しかし当助成金増額の要請に対しては否定的意見が出されたので再検討をすることとなった。

⑭インド・ヒマラヤ編集出版委員会（星）：3月21日に拡大委員会を開催予定（執筆者を含め30名に案内）している旨報告。

⑮夏山フェスタ（毛利）：イベントの企画内容の大枠が決まったので、4月発行の支部報に案内を掲載する予定である旨報告。

⑯森の音楽祭（毛利）：3月31日に第1回実行委員会を開催する予定である旨報告。

⑰支部長及び副支部長の担当する委員会（小川）：修正したリストを配布と同時に補足説明。

⑱総務委員会（佐野）：配布された資料をもとに当面の主な予定につき説明。

⑲「山の日」におけるイベントの実施について（佐野）：配布された資料に基づき経緯及び今後の予定につき報告。まずは3月13日に関係者による意見交換会を開催する予定である旨報告。

出席者：尾上、箕浦、小川、柴田、山田、佐野、野呂、中世古、高橋、和田、市川、石田、酒井、南川、鈴木、加藤、星、前田、井上、野寄（代理）、毛利

欠席：梶浦

【2015年3月常務委員会】

日時：3月25日（水）19時00分～21時30分
1. 支部長挨拶（小川）：配布された平成27年度の組織図案を基に変更予定の内容につき説明。4月の常務委員会にて決定の上、総会に諮りたい旨案内。

2. 委員会報告

①会計（市川）：登山教室用テキスト増刷費の不足分約21万円を登山教室に払うこととした旨報告。3年間会費未納のため会員資格を失う恐れのある2名の会員の名前を開示すると同時に面識のある方から再度退会の意味確認をしてほしい旨依頼。来年度の各委員会の予算は26年度と同程度として予算を組む予定であるが、新規の事業予算が必要な委員会は内容等につき提案をしてもらいたい旨依頼。写真展委員会から展示スペースを広くすることにしたので増額を検討してほしい旨依頼。一助成金を申請することも含め要検討。

②岳連（市川）：日山協代表者会議があり「山の日」が制定されたので中部6県で「ふるさとの山へ登ろう」のイベント開催を検討することとなった旨報告。

猿投山における山岳ランへの参加者68名のうち42名が高校生で、猿投神社から山頂までの所要時間は27分47秒が最速であった旨報告。

③支部友委員会（酒井）：配布された3月度議事録に基づき2月～3月の山行実施状況、今後の支部友ミーティングの予定、会員異動状況などにつき説明。支部友会員も同好会に参加できるかの質問に対しては、佐野総務委員長より参加可との回答。H26年度活動報告書ならびにH27年度活動計画書提出。

④猿投の森づくりの会（和田）：配布された資料を基に、2月～3月の定例作業ならびにイベントの報告。

4月18日、19日に開催予定の全国森づくり連絡協議会への参加予定が少ないので東海支部から多数の参加をお願いしたい旨依頼があった。平成27年度活動計画案提出。 - 了承。

⑤山行委員会（石田）：配布された資料を基に、H26年度の事業報告ならびにH27年度の事業計画の内容につき説明。支部山行の進め方および山行計画の概要についても説明。 - 了承。

⑥亀の会（加藤）：配布された資料をもとに平成26年度事業報告並びに平成27年度の事業計画案の内容を報告。 - 了承。

⑦東海 YOUTH（山田）：配布された3月活動報告書をもとに会員動向、山行報告並びに山行計画の説明と同時に、平成26年度活動報告および平成27年度活動計画が提出された。 - 了承。本日現在、6人より支部員への転籍の意志が確認された旨報告。

⑧支部報編集委員会（星）：支部報 No. 141 は3月27日発送の予定である旨報告。

⑨青年部（梶浦）：配布された3月度議事録を基に2月～3月の山行報告ならびに3月以降の山行計画につき説明有。

⑩登山教室（山田）：3月度議事録にて2月・3月の山行報告、教室動向の説明。

鈴木委員長欠席のため、山ガールむけ山行のバス代負担につき以下の報告あり：ワークシステム杉山氏の配慮で11名定員のバス手配が可能となった。その為予想されたバス代の赤字が解消出来る可能性が出てきたとの由。

⑪インドヒマラヤ（星）：進行状況の報告あり。それによると、原稿は約半分入手済で大体のア

ウトラインが決まった段階で、原稿は6月には印刷屋に渡せる見通しとのこと。印刷は1000部を予定。

⑫海外登山（高橋）：学生のトレッキング隊が帰国した旨報告あり。

⑬図書委員会（石田）：平成26年度事業報告・平成27年度事業計画の提出有。

高橋副支部長より、国土地理院の全国をカバーした2万5千分の一地形図一式の寄贈の話があるが東海支部で受け入れ可能かの質問有 - 保管する場所の問題もあり要検討となった。

⑭自然保護委員会（南川）：配布された3月度議事録をもとに2015年度の行事予定の説明あり。H27年は森の勉強会が10月24・25日に決定したので東海支部の森の音楽祭の手伝いが出来ないのので了解してほしいとのこと。また2014年度活動報告ならびに2015年度予定の提出があった。 - 了承。

⑮ボランティア委員会（前田）：配布された3月度報告に基づき春のブラインド登山、SON・愛知支援登山などにつき説明有。同時に2014年度事業報告、2015年度事業計画案が提出された。 - 了承。

⑯遭難対策委員会（野呂・高橋）：五竜における遭難につき、高橋副支部長より配布された報告書並びに開示された現場の地図をもとに現況並びに今後の遭難活動の予定につき説明有。同時に、東海支部として遭難活動を行っていくについて「遭難対策費」を充てること、遭難活動をするにあたっては東海支部として保険に加入し、まさかの事態に備えることとしたいので常務委員会の承認をいただきたい旨発言 - 原則承認、具体的な内容については遭難対策委員会及び支部長・副支部長会議にて検討することとする事となった。

⑰写真展実行委員会（井上）：H28年3月に2部屋を借りて開催できる事となった旨報告。具体的日程は4月常務委員会にて報告の予定である旨報告。

⑱事業企画委員会（毛利）：

1) 夏山フェスタ：チラシを支部報に同封する旨報告。

2) 森の音楽祭：今年は「山の日」のイベントして開催。午後の部は森の観察のほか山頂への登山（ハンデキャップの人の登山もそれに含める）、沢登り、間伐材を使った工作、シイタケ作りなどを加えることを検討している旨報告。

⑲「山の日」におけるイベントの実施について（佐野）：経緯及び今後の予定につき報告。本年度はとりあえず、森の音楽祭を拡大版とし「山の日」プライベートとした位置づけとし、来年以降の計画については4月から具体策の検討に入る旨報告。東海支部としては「山の日」事業本部を立ち上げ、積極的に取り組んでいきたい旨報告。

⑳総務委員会（佐野）：配布された平成27年度組織図ならびに役員案につき内容の説明と同時に、ご意見があれば4月の常務委員会にて提案をお願いしたい旨依頼。

出席者：尾上、箕浦、小川、柴田、山田、佐野、野呂、高橋、和田、市川、石田、酒井、南川、加藤、星、前田、井上、梶浦、毛利

欠席：中世古、鈴木、

【2015年4月常務委員会】

日時：4月22日（水）19時00分～22時00分

1. 支部長挨拶

4月12日、荒島岳遭難事故が発生し大島支部員が亡くなり、吉田、前田支部員が骨折した。前半1時間で常務委員会、後半で「荒島岳事故報告」について質問、意見など話し合いを持ちたい。なおこの事故については今後も検討を続ける。また4月14日には、「山田トシ カナダの山を語る」の講演があり盛況であった。その際に発表された「青年部カデ`イソロッキーの連続踏破」計画に対して、チャレンジ基金より10万円提供した旨報告。

2. 委員会報告

①会計（市川）：H26年度決算報告並びにH27年度予算案の説明があった。予算案のうち、遭難対策初動基金のうち、迅速に動けるよう50万円を委員会に渡すとのこと。

②支部友委員会（酒井）：配布された資料を基に山行報告と山行予定、第11回支部友ミーティングの結果など報告。会員数は4月入会者が3名で現在41名。

③山行委員会（石田）：4月の委員会は中止。3月23日のリーダー会議で、リーダー14名。H27年度事業計画に沿って進めていく予定。山行案内はインターネットとともに紙面でも知らせることとした旨報告（支部報同封）。

④亀の会（加藤）：4月23日に22人で「福知山」山行予定。

⑤東海ユース（山田）：資料に基づき報告。運

営委員は全員に担当して貰う為総入れ替えとなる。2年間の区切りを迎えた対象11名のうち、6名がJACに入会、新入が4名で現在25名。

⑥支部報編集委員会（星）：他支部からの「支部報送付」に対する礼状を紹介。支部報No. 142についての原稿依頼ならびに内容説明。「インフォメーション」の配置変更、「カラー化」などを努める。

⑦登山教室委員会（鈴木）：配布資料に基づき、3月の山行報告並びに4月の山行計画の報告。各教室動向：「山がール・ホーイ」男3名、女10名、計13名で4月開講。登山教室テキスト増刷版が3月末300冊納入された旨報告。

⑧自然保護委員会（南川委員長欠席の為山田報告）：配布資料に基づき、「2015年度自然観察山行」が6月14日～15日に奈良「春日山原生林」と「古代最古の霊地三輪山」で行われる。2014年3/2～8/19（7回）に実施した「猿投の森の両棲類・水生生物調査観察」では、両棲類4種、水生昆虫10種、魚類2種、軟甲類1種、水生植物カワモズク、以前より減っていると報告。

⑨ボランティア委員会（前田）：配布資料に基づき、SON愛知支援登山、春のブラインド登山、親と子のふれあい登山、委員会新メンバーなど報告。秋のブラインド登山がNHK金とくで取り上げられる予定となった旨報告。

⑩遭難対策委員会（野呂・山田）：事務局を設け細部にわたり対応をすることとした旨報告。山田副支部長より3/18・19の両日行った「五竜岳遭難捜索」の詳細な結果報告とともに、捜索の困難さなどの問題もある旨報告。

⑪写真展実行委員会（井上）：配布された資料に基づき、第15回写真展の開催期間、実施要領、予算などを報告。— 開催期間は3月15日～20日開催、65点以上の応募を予定しているとのこと。撮影山行も毎月1回実施予定と報告。

⑫デジタルメディア委員会（井上）：配布資料に基づき、支部活動における情報技術の活用並びに支部員山行での情報技術の活用支援を計画とする。各委員会から1名ずつ参加してほしいとのこと。

⑬猿投の森づくりの会（和田）：配布資料に基づき、作業報告、4月18日～19日の第9回全国森づくり連絡協議会、総会（5/16）予定、H27年度の役員及び委員の報告があった。

⑭事業企画委員会（毛利）：*夏山フェスタ：前夜祭も行う。「スマホを使って山を楽しみま

しょう」のセミナーを鈴木慎吾氏講師で行うとの報告。

⑮森の音楽祭実行委員会（毛利）：3月31日に委員会があり、ちらし・ポスターの作成準備にかかっているとの報告。

⑯総務委員会（毛利）：配布資料、H26年度事業報告、H27年度の事業計画、について説明。配布資料、H27年度の役員（案）・組織図について小川支部長から説明。

1) 「山の日」事業本部の発足について（小川・毛利）：いよいよ2016年8月11日に「山の日」（休日）が施行されるが、日本山岳会も当法案成立にむけ先頭に立った経緯もあり、日本山岳会としても「山の日」の啓蒙活動に積極的に関わることがある。同時に各支部でも同様の取り組みが期待されている中で、東海支部としては今年開催予定の「森の音楽祭」を「山の日」イベントの位置づけとしている。

来年は8月11日、12日と愛・地球博記念公園を会場にして開催すべく準備にかかったので、東海支部の全面的協力をお願いしたい旨依頼。

2) JAC本部への登山計画書の届けについて（小川・柴田）：東海支部としては今まで当登山計画書の提出は断る立場であったが、当登山計画書の提出を定めた遭難対策規程が既に機能しており、半数以上の支部が当規程に基づき支部主催の山行については本部に登山計画書を提出していることを鑑み、これからは、東海支部主催も、山行委員会、支部友委員会、亀の会が催行している山行は、各委員会から直接本部担当部署にメールもしくはファクシミリで登山計画書を提出することとしたいので了承して欲しい。 - 承認。

3) 荒島岳遭難事故について（柴田・石田）：当事者の石田より、事故の詳細な報告書が提出され本人から説明があった。柴田副支部長から当報告書の内容につき一部不正確、意味不明の箇所もありもう少し内容を精査する必要がある旨報告。当報告会の中で事故発生の原因・反省点などの話題も複数出たが、そうした議論は常務委員会の場でなく人員の少数の専門スタッフにて行うべきとの結論となり散会した。出席者：箕浦、小川、柴田、山田、野呂、中世古、高橋、尾上、和田、市川、石田、酒井、西山、鈴木、加藤、星、前田、井上、毛利
欠席：佐野、南川、梶浦

【2015年5月常務委員会】

日時：5月27日（水）19時00分～21時15分

1. 支部長挨拶（小川）：支部総会終了の報告に続いて新委員長の紹介あり：一副支部長・佐野、総務委員会 - 毛利、青年部 - 藤寄、山行委員会 - 鈴木。

2. 委員会報告

①会計（市川）：総会に上程した平成27年度予算案について若手育成の為の入会補助金400,000円を特別会計チャレンジ基金から支出するとしたが、当補助金は一般会計から支出するのが妥当ではないかとの指摘があった。この指摘を受け、正副支部長会議にて検討の結果、総会での指摘の通り一般会計から支出することとなった。これを受けて、修正予算案を提案 一承認。

②支部友委員会（酒井副委員長）：配布された5月度議事録に基づき、4月及び5月の山行実施状況報告。予定された7つの山行計画の内。御在所は雨のため、鎌ヶ岳は東名阪渋滞の為中止した旨報告。最近の山行ではキャンセルをする会員が目につくようになってきたことを踏まえ、今後はガイドブックの規定に基づきキャンセル料の徴収を行う事とした。夏山フェスタに向けて支部友会員の勧誘パンフレットの作成を1000部印刷し、会員への周知を図っていく旨報告。4月の常務委員会での決定に基づき、4月の赤坂山山行より本部への山計画書の提出を始めた旨報告。支部友会員は5月末現在、1名入会・退会無しで42名。

③山行委員会（鈴木）：5月度開催の委員会にて山行案内のホームページへの掲載内容のアップデート並びに、役割分担の取り決めを行った旨報告。また森の音楽祭に予定された猿投山登山の担当を山行委員会で引き受けてほしい旨依頼があったが、リーダーの不足もあり難しいので登山教室委員会の方が人材確保も容易なので適任ではないかとの提案有。

一この件については森の音楽祭担当の毛利より天野新登山委員会委員長より内諾を得ているので、登山委員会にて引き受けて頂くこととしたい旨発言あり。

④亀の会（加藤）：配布された第29回議事録をもとに2015年度における、運営の改善策、「山での事故発生時の手引き」の見直し、実施山行の反省・今後に向けての課題などにつき説明あり。会員数は4月現在57人（昨年より変動なし）

⑤猿投の森づくりの会（和田）：配布された資料に基づき、会員数、4・5月の作業ならびに自然観察会実施状況説明。また5月16日には蔵治先生にも出席いただき33名の参加を得て猿投の森づくりの会の総会を行った旨報告。

⑥東海Youth（山田）：配布された5月度活動報告をもとに定例・自主山行の実施状況報告。

メンバーの希望に応え、御在所本谷において岩場歩きの基礎とロープワークの研修を行った（19名参加）旨報告。東海Youthの山行についても6月から本部へ登山計画書を提出をすることにした旨報告。会員数は5月20日現在、25名。

⑦支部報編集委員会（星）：東海支部報の原稿の締め切り日が過ぎているにも拘らず入稿は1件のみ、原稿提出を依頼されている方はなんとか今月中に提出して欲しい旨依頼。

⑧インドヒマラヤ編集委員会（星）：5月末迄に校正を完了させ予定通り11月発行を目指し準備中である旨報告。

⑨青年部（藤寄）：4月26日～5月6日の岳沢合宿は学生と青年部の合同で行い、16名が参加。涸沢から岳沢へ抜けていくルートは12名が参加。事故なく終了した旨報告。5月10日は猿投山で地図読み講習会を実施、5月23日～24日は青年部主体で五龍岳遭難の捜索を行った旨報告。又東海支部が導入した若年層入会金補助制度により5人が支部に入会してくれることとなった旨報告。又5月29日に東学連総会を開催する予定である旨報告。

⑩登山教室委員会（鈴木）：配布された資料を基に4月・5月の各教室の山行実施状況及び各教室の動向を報告。NHKについては教室開講最低人員15名に1名足りないが、半期はこのまま開講することとなった旨報告。

⑪自然保護委員会：委員長欠席の為5月度議事録のみ配布。

⑫海外登山委員会（高橋）：1) 8月上旬中国にて開催予定の日中韓交流登山に3～4名東海支部から派遣の予定であること。2) カナダ在住の山田トシ支部員の岩壁登攀は予定した4山のうち2山制覇したこと。3) 酒井支部員がマッキンレーに挑戦中である旨報告。

⑬ボランティア委員会報告：配布された資料を基に、SON愛知支援登山「山岳会と一緒に登山2015」を4月25日・26日にブナ清水～青岳の往復登山で実施、春のブラインド登山を5月10日東

濃屏風山にて実施した旨報告。ブラインド登山についてはNHKプラネットも取材を兼ねて参加、これからも継続的に取材を続けて行きたいとの話であった旨報告。

⑭遭難対策委員会（野呂・山田・高橋・柴田）五龍岳遠見尾根遭難捜索一山田副支部長より配布された報告書を基に第2次捜索(5月4日～6日)の報告と高橋副支部長より第3次捜索(5月23日～24日)の結果が報告された。また、野呂委員長より5月17日の別部隊の捜索の報告書が回覧された。

荒島岳遭難一柴田・山田両副支部長より5月24日に行った遺留品捜索と事故現場検証の報告あり。生還した隊員のリュックなどは見つかったが、肝心の大島支部員の遺留品はストッカー本以外見つけることが出来なかったとのこと。出席者：尾上、箕浦、小川、柴田、山田、佐野、野呂、中世古、高橋、和田、市川、石田、酒井、藤崎、鈴木、加藤、星。前田、井上、毛利
欠席：井上、天野、南川

総務委員会 毛利邦男 記

ル ー ム 日 誌

3 月

- 2 日 (月) 支部友委員会
- 3 日 (火) 県岳連
- 4 日 (水) 青年部/TNCC (同好会)
- 5 日 (木) 写真展委員会
- 6 日 (金) 古道塩の道
- 9 日 (月) 登山教室委員会/支部報編集会議
- 10 日 (火) 東海ASC
- 12 日 (木) 自然保護委員会
- 16 日 (月) 図書委員会/支部報編集会議
- 17 日 (火) ボランティア委員会
- 18 日 (水) 山行委員会/総務委員会
- 19 日 (木) 東海学生連盟
- 20 日 (金) 東海ASC
- 21 日 (土) ニュース企画/イトヒマヤ編集会議
- 23 日 (月) 山行リーダー会議
- 24 日 (火) 猿投の森運営委員会
- 25 日 (水) 常務委員会
- 26 日 (木) 登山教室委員会
- 27 日 (金) 支部報発送作業
- 28 日 (土) 学生部/東海ユース
- 31 日 (月) 森の音楽祭

4 月

- 1 日 (水) 青年部/TNCC (同好会)
- 2 日 (木) 写真展委員会
- 3 日 (金) 古道塩の道
- 6 日 (月) 支部友委員会/会計委員会

- 7 日 (火) 県岳連/山の日連絡会
- 8 日 (水) 支部友ミーティング
- 9 日 (木) 自然保護委員会
- 10 日 (金) 山行打ち合わせ
- 11 日 (土) 遭難対策会議
- 13 日 (月) 登山教室委員会
- 14 日 (火) 会計監査/支部友新人リエンション
- 15 日 (水) 山行委員会/総務委員会
- 16 日 (木) 東海学生連盟
- 17 日 (金) 評議委員会
- 20 日 (月) 図書委員会
- 21 日 (火) ボランティア委員会
- 22 日 (水) 常務委員会
- 23 日 (木) イトヒマヤ編集会議
- 24 日 (金) 亀の会運営会議
- 25 日 (土) HAT-J総会
- 28 日 (火) 猿投の森運営委員会
- 30 日 (木) 森の音楽祭実行委員会

5 月

- 1 日 (金) 古道塩の道
- 8 日 (金) 青年部
- 11 日 (月) 登山教室委員会
- 12 日 (火) 県岳連/遭難対策会議
- 13 日 (水) 支部友委員会
- 14 日 (木) 自然保護委員会
- 16 日 (土) 支部総会/猿投の森づくりの会総会
- 18 日 (月) 図書委員会
- 19 日 (火) ボランティア委員会
- 20 日 (水) 山行委員会/総務委員会
- 21 日 (木) 東海学生連盟
- 22 日 (金) 遭難対策会議
- 25 日 (月) 森の音楽祭
- 26 日 (火) 猿投の森運営委員会
- 27 日 (水) 常務委員会
- 29 日 (金) 東海学生山岳連盟総会

会 員 異 動

入 会 :

- | | |
|--------------|---------------|
| 遠藤ちさと(15696) | 池戸美恵(15699) |
| 牛嶋敏明(15701) | 鬼頭光義(15703) |
| 掘田一廣(15708) | 磯部 隆(15722) |
| 渡辺 保(15733) | 小口弘美(15745) |
| 櫻井玲子(15746) | 玉木 恵(15748) |
| 北村雅臣(15753) | 渡辺雄也(15754) |
| 澤田恵里(15756) | 長谷川久美子(15758) |
| 大関真耶(15762) | |

退 会 :

- | | |
|-------------|--------------|
| 安井潤一(14869) | 伊藤利弘(14328) |
| 石川耕春(11631) | 毛塚一雄(12951) |
| 上野幹奈(15178) | 内ヶ島進(15278) |
| 大島忍(13078) | 内田八重子(15015) |

INFORMATION

【森の音楽祭実行委員会からのお知らせ】

第7回森の音楽祭2015を下記要領にて開催します。皆さんの参加をお待ちしています。
内容：猿投の森特設会場入口でアルプホルンの演奏でお迎えした後、東海学園交響楽団によるベートーヴェン作曲 交響曲第7番の演奏を楽しんで頂きます。

昼食後は希望者による①森の観察会(人数制限有-先着150名)②猿投山山頂をめざしたハイキング(先着50名)③クリスマスリース作り(先着50名-これのみ参加費が別途300円必要)が開かれます。

開催日：10月24日(土)

場所：県有林山路の森(猿投の森)特設会場
(雨天の場合は瀬戸蔵“つばきホール”にてアルプホルンと交響楽団の演奏のみ開催)

参加費：500円

集合場所・時間：

名鉄瀬戸線 尾張瀬戸駅前 午前9時
瀬戸駅から猿投の森入口までは無料バスでの送迎、バス下車後、音楽祭会場まで徒歩(約2km)

詳細は同封しましたチラシを参照ください。

申込方法：ハガキ・ファックス(東海支部森の音楽祭実行委員会宛)又は、e-mail(メールアドレス：sanagenomori@gmail.com)

問合せ先：森の音楽祭実行委員会 毛利邦男

【写真展実行委員会からのお知らせ】

今夏から秋にかけて各地へ写真撮影を開催します。一緒に撮影参加しませんか。撮影せず、きれいな景色を楽しみたい方も歓迎します。是非ご参加してください。

7月 車山

月日：7月12日(日) 日帰り

交通手段：自家用車

撮影対象：ニッコウキスゲなど

申込締め切り：7月7日(火)

申込先：井上寛之(写真展実行委員)

携帯 090-6590-6669

8月 中止

9月 秋の紅葉等撮影会

月日：9月17日(木)～18日(金) 1泊2日

交通手段：自家用車

撮影対象：秋の紅葉 山野草や風景

撮影場所：乗鞍岳 東面山頂及び山麓周辺

宿泊：国民休暇村 又は すずらん高原

費用：10,000～14,000円

(その他は自己負担)

申込締め切り：8月末

申込：箕浦靖夫(090-8184-0009)

及び 委員会のメンバー

10月 立山室堂周辺の撮影

月日：10月1日(木)～2日(金) 1泊2日

交通手段：公共交通機関

撮影対象：紅葉の立山連峰、天狗平、弥陀ヶ原

宿泊：天狗平山荘

申込締め切り：8月末

申込：山内 薫(090-1723-2847)

及び 委員会のメンバー

10月 裏剣(仙人池 池の平)

月日：10月7日(水)～10日(土) 3泊4日

交通手段：公共交通機関

撮影対象：裏剣(仙人池 池の平)

宿泊：山小屋

(剣沢小屋、仙人小屋、宇奈月温泉など)

申込締め切り：9月27日(日)

申込：井上寛之(090-6590-6669)

及び 委員会メンバー

備考：縦走、若干体力が必要。参加者希望者との調整で4泊にする場合もあり(7日～11日)。

申込・問合せは井上寛之 090-6590-6669

hinoue@sb.starcat.ne.jp または

写真展実行委員会までご連絡下さい。

写真展実行委員会 井上寛之

記事訂正

先号のインフォメーションで、写真展実行委員会からのお知らせのうち「山(未定)」は「車山」の間違いでした。お詫びして訂正いたします。今号の写真展実行委員会のお知らせをご覧ください。

編集後記

カナダから、山田利行会員が魅力ある登攀活動を伝えてきた。支部設立の原点は、海外の山を目指すエネルギーであった。この力を絶やさない組織づくりを今年も願いたい。 星 一男

